

昼夜を問わない危険な樋門・樋管管理を地元に戻すことは認められない。

- 1 アセスでは、ケース3-2であっても、背後地の排水条件が悪化し、湛水被害は拡大する結果が示されている。
- 2 調整池周辺で管理が必要な樋門・樋管は約300箇所及び、昼夜を問わない危険な重労働である樋門・樋管管理を再び地元に戻すことは認められない。

豪雨時の排水操作が必要な主要な排水樋門・樋管位置図

管理体制の整備

国が示す樋門・樋管管理



開門に必要な対策の実施 (施設機能の充実)

既設樋門のゲート改修等
 (ゲートの改修 : 24箇所、水密ゴムの更新 : 9箇所
 フラップゲートの設置 : 7箇所、エポキシ樹脂塗装 : 8施設)

施設の操作・管理を行う体制の整備

現地事務所及びその受託業者が24時間体制で管理

(常時: 延べ約50人規模(2班体制)
 洪水時: 延べ約140人規模(2班体制))

※短期開門調査時の管理体制の例。

豪雨時の排水操作が必要な排水樋門・樋管
 (常時(樋門敷高がEL (-) 1.0m以下) : 16箇所)

湛水拡大の防止対策

排水ポンプの規模の見直し
 排水樋門前面のミオ筋の浚渫等の実施

記号	名称	主要排水樋門・樋管の機能診断調査結果
既設樋門	背後地既設排水樋門	現地調査を実施した樋門・樋管(28施設)のうち、本体コンクリートに関しては特に損傷が認められる施設はなかった。ただし、周辺堤防と段差を生じている施設が10施設で確認された。 ゲート施設に関しては、腐食等によるゲート本体の劣化及び操作不能な施設、水密ゴムが劣化している施設が12施設確認された。

施設区分	堤防区分	施設数量(箇所)
その他樋門樋管及び小口径管	背後地既設堤防	92箇所
	河川堤防(本明川、半造川)	29箇所
	河川堤防(旧二級河川)	145箇所
	内部堤防	0箇所
小計		266箇所

国は16箇所の樋門を管理するとしているが、塩水浸入を防止するためには約300の樋門・樋管管理が必要